

# ☆旧統一教会と政治の相互依存

## 1 続々出てくる政治との相互依存関係の問題 1

◆七月の安倍元首相の銃撃事件から3ヶ月、この事件の根底にある旧統一教会と政治家との相互依存関係は、この国の政治の闇を露呈しました。

## 銃撃事件があぶり出した問題の深刻さ

◆この事件が起こったとき、安倍元首相が旧統一教会と深く関わっていた事など、ほとんどの国民は知りませんでした。従って、暴力によって恨みを晴らす行為に対する批判がほとんどでした。

◆この批判は正当です。しかし多くの人生を破壊し命を奪ったこの反社会的団体と相互依存していた政治家が多数いた事実は、政治の闇を露呈しました。

## 相互依存の実態

◆この事件が起こってから、国民からの強い批判によって、重い腰を上げた自民党の調査結果（9月9日時点）には驚かざるを得ません。なんと議員の半数近くが相互依存的に関わっていたのです（379人中179人）。

◆その内容は「選挙を支援してもらった」「関連団体の会合に出席して挨拶や講演をした」「関連団体の会員として会費を納めていた」「関連団体から寄付を受けたり、パーティー券を買ってもらった」「教団側の政策協定に署名した」「教団側から推薦状をもらった」などまさにズクズクの関係です

◆これに対し、この団体の反社会性を知らなかったと言いつく議員がかなりいます。この言い訳を可能にしたのが、この団体の名称変更（2015年）です。この団体の反社会性を隠蔽する「世界統一平和家庭連合」となりました。それを可能にしたの元文科省大臣下村博文氏の不透明な名称変更認可でした。

◆野党の中にも接点を持っていた議員がいたこと、地方議員にも少数ながらいたことも事実です。しかし少数であっても、当事者は反省すべきです。

## 議員の価値観、倫理観で投票の判断を

◆この団体の被害で苦しんでいる人が今も多くいること、政治家との相互依存は今後も続く可能性があることから、この団体に「報告徴収・質問権」を適用し厳正な処分を実行することを求めます。

◆一方、この度の出来事を教訓に、私たちは候補者がどんな団体と関わっているか、その人の価値観、倫理観は健全かどうかを見極めて投票しようではありませんか。

二〇二二年十一月十三日（日） 護憲平和行進（通算669回目）  
★浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五  
★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合



憲法第二十条 「信教の自由と禁止行為、抜粹」

・信教の自由は、何人に対してもこれを保障する。いかなる宗教団体も国から特権を受け、又は政治上の権力を行使してはならない。

宗教法第八十一条 「宗教法人の解散命令、抜粹」

・法令に反して、著しく公共の福祉を害すると明らかに認められる行為をしたこと。